



編集発行：寝屋川市社会福祉協議会ボランティアセンター  
電話：072-838-0400  
URL <http://www.neyagawa-shakyo.or.jp>

おもな Contents :

- コミュニティの重要性を実感  
～避難所訓練～
- 定期V活動に226人(4~9月)
- ボランティア活動調整報告
- ボランティア活動あれこれ
- 作ってみよう! 便利な自助具

# 活動はじめて30年 録Vグループ「ほうれんそう」



軽やかなミシンの音とともに、愛情もつまった小物が作り出されます=ボランティアセンターで手作り小物は当センターでお求めいただけます

●●賞はじめ受賞多数

当ボランティアセンターには57のボランティア団体、24校区ボランティア部会、100を超える個人ボランティアが登録しています。その中でも団体登録の「ほうれんそう」が創設から30年休むことのない活動を続けています。

12人の仲間とともに、昭和62年4月にボランティアグループ「ほうれんそう」の活動がはじまりました。

在宅介護家族会への支援を柱に介護援助の小物などを制作。発足時に40歳代半ばの会員も30年の月日を経て・・・今日に。現在16人での活動です。

## 30年の長きにわたって続いてきたのは◆部会員のおもい◆

ボランティア活動は「自分のためのもの」と考えてきたことが大きいと思います。

活動のためにボランティアセンターに行くこと、材料を揃えること、作品ができあがること、仲間と語り合うことのひとつ一つが、やりがいにつながりました。

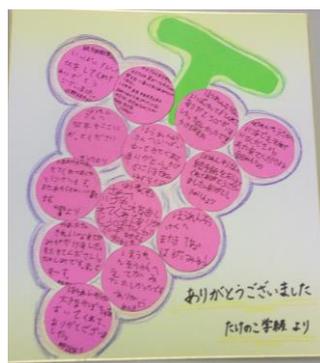
とりわけ、人に喜んでいただけることの感動を受け続けました。これらが長続きの秘訣だと確信しています。

## ボランティア活動の「ふ・み・つ」

活動内容も年々拡がって小物の手作り、また15年ほど前から「絵手紙講習会」を始めて、市内の小中学校、高齢者施設などへ指導者の出前をしています。

「訪問先での『楽しみに待っていました』『次はいつですか』の声に心が満たされます。これからも私たちの生きがいのため、回りの笑顔のためにも続けていきます」

市立国松緑丘小学校より届いた絵手紙指導のお礼色紙(児童からの感謝のメッセージ)



※「報告・連絡・相談」から【ほうれんそう】と命名します」と村井代表のことば。

# コミュニティの重要性を実感

## 避難所訓練

校区V部会長会と障害者団体協議会が合同で災害時に設置される合同避難所の訓練を11月2日、池の里市民交流センターで実施しました。

阪神や東日本震災時の「避難」の実情解説後、避難所を想定して、体育館の限

られた場所での工夫や体が不自由だと寝起きができないことなどを体感。次に段ボールや新聞紙で暖をとる体験。

また、車いすには通路幅が80cm以上必要なこと、視覚障害者用の白杖、導線口の紹介もありました。

その後グループに分かれ災害時を想定。様々な条件で意見を出し合いました。

■参加者のこえ  
地域に関心を向け、お互いに声かけあって地域で生活していく姿勢が必要であるという地域コミュニティの大切さを実感しました。

キャプション

## 社協・福祉のこころを共通認識 Vセンター相談員研修会

11月28日に9人の相談員が濱吉次長を講師に社協の組織や福祉、地域の取り組みについての研修をしました。

毎年相談員の研修会を開いて、相談員のあり方を学んでいます。

相談員は「相談員になって日が浅く分からないこともありましたが、社協の成り立ちや役割、心構えなど理解することができ、今後の活動に役立ちます」と話していました。

毎回決まったV依頼者（高齢者施設などの活動先）に、校区、登録団体、個人のボランティアが定期的に活動しています。

## 定期V活動に226人 4~9月

### 定期ボランティア活動調整報告 【当ボランティアセンター取扱い調整分（施設・団体に限定）】

	活動先（グループ別）	活動日等	対応（V・校区・団体）	人数
1	バリアフリー寝屋川	週1回	桜・点野・田井・成美	43
2	さくら草	第1（火）	西・成美	8
3	元気やデイサービス	隔週（水）	個人	10
4	特養 神田の里	週1回（火）	14の耳	24
5	特養 香西園	週1回（月）	個人	15
6	小規模多機能いちょう園	毎（火）・月1・他	個人・明和・梅が丘・音信の会・矢車草	74
7	グリーンヒル醇風	月1回（3活動）	明和・個人・東	23
8	ケアキューブ寝屋川駅前	月1回	個人	6
9	Vセンター	隔月1回	個人	7
10	神経筋患者家族会ひまわり会	第3（木）	中央	6
11	介護老人保健施設	第2（土）	個人	6
12	男性料理教室	毎（水）	個人	4
			活動人数合計	226

# 大活躍のボランティア (10~11月)



## ボランティア活動調整報告

【当ボランティアセンター取り扱い調整分(施設・団体に限定)】

月	活動日	活動先 (施設・団体)	活動分野	活動内容	人数	対応 [ボランティア・校区・団体]
10	6・26	南病院ケアセンター	高齢者	行事援助	10	大阪睦会・個人
	6	デイセンター寝屋川苑	高齢者	行事援助	4	栄光会
	12・21	コスモス保育所	幼児	保育	4	西・田井
	14	中央校区V部会	高齢者	行事援助	1	百楽の会
	14	国松緑ヶ丘小学校	児童	行事援助	2	ほうれんそう
	15・19	たんぽぽ子育て支援センター	幼児	保育	6	明和
	15	障害児者を守る親の会	乳幼児	保育	7	木屋・北・田井
	15・20・22・26・28	ケアキューブ高柳	高齢者	行事援助	11	うきうきわくわく音信の会 百楽の会・歌体操・個人
	17・24	グレイス寝屋川	高齢者	行事援助	6	なんぼーず・個人
	20	FMC・GH香里園	高齢者	行事援助	7	睦会
	23	たのしい家寝屋川	高齢者	行事援助	5	栄光会
	23	ヴィヴィファミリー寝屋川	高齢者	行事援助	6	うきうきわくわく音信の会
	29	特養いちよう園	高齢者	行事援助	8	梅が丘
	29	オールケア寝屋川	高齢者	行事援助	10	中央・第五・個人
小計	22	14			87	
11	2・8	たんぽぽ子育て支援	幼児	保育	6	明和
	5	C I a b E&T	障害者	行事援助	2	ほうれんそう
	5	ワークセンター小路	障害者	行事援助	11	明和・木田・東
	6	葛原自治会 福祉	高齢者	行事援助	1	個人
	9・26	デイ寝屋川苑	高齢者	行事援助	8	ハーモニック会・歌体操
	13	堀溝北町自治会福祉	高齢者	行事援助	2	音遊の会
	15	サロンポピーの会	高齢者	行事援助	4	「夢楽らいぶ」一座
	19	障害児者を守る親の会	障害児者	保育	7	北・西
	19	神田校区地域協 福祉	高齢者	行事援助	2	個人
	20	たのしい家寝屋川	高齢者	行事援助	●	美鈴会
	20	ツクイ寝屋川	高齢者	行事援助	●	栄光会
	23	池の里クラブ	児童	行事援助	18	桜・啓明・神田・成美・中央 個人・エンジョイ
	24	FMC GH香里園	高齢者	行事援助	●	さつき会
	26	高柳7丁目自治会	高齢者	行事援助	1	百楽の会
28	グレイス寝屋川	高齢者	行事援助		わくわく音楽隊	
29	老人デイS・香里寿園	高齢者	行事援助	1	藤家	
小計	18	16				
10月~11月 集計 延活動日数 40日 活動件数: 30件 ボランティア数: ● 人						

## 福祉用語の小部屋

### 社会的支援ネットワーク

社会生活を送る上での様々な問題に対して、身近な人間関係における複数の個人や集

団の連携による支援体制をいう。サービス利用者の個々の生活状況や問題に応じた個別のネットワークの形成が必要である。

介護用語辞典より

# ボランティア活動あれこれ

地域の学生、仕事や子育てを済ませてボランティアに関心のある人たちから活動に関しての質問が寄せられます。

社協のボランティアセンターでは次のようなことを紹介しています。

## 活動場所

- 高齢者施設 ○障害者施設 ○病院 ○学校・保育所(園) ○地域内
- 経験を活かして・・・
- 読み聞かせ・散髪・通園通学送迎
- 趣味を活かして・・・
- 絵画・手芸・囲碁将棋

- スポーツでも・・・
- 卓球・ダンス・ボーリング
- 特技・資格で・・・
- 点字・手話・運転・傾聴
- 個性も活かして・・・
- 話し相手
- 話など、あなたの活動場所はたくさんあります。
- ※詳しくはボランティアセンターまで
- 072(838)0400

# 作ってみよう！便利な自助具

(ボランティア講座:シニア編)

「靴下を履く」「髪をとく」など日常生活での動作が困難になった人が自助具を使うことで生活の幅が広がります。

身近な生活用品を加工して自助具の製作について学び、高齢者や障害者など一人ひとりの身体状況や能力に合わせた「自助具製作ボランティア」の育成を目的に開きます。

□ 日時：1回目 平成29年1月20日(金)

13時30分～15時30分

2回目 平成29年1月27日(金)

13時30分～15時30分

❖受付はいずれも13時から

❖1・2回目とも内容は同じ

□ 場所：保健福祉センター5階

会議室3-1. 2. 3

□ 対象・定員：概ね60歳以上の市民

各回20人

□ 内容：自助具とは・高齢者や障害者などの日常生活で困難なことを知るなど

□ 講師：おかもと訪問看護ステーション  
作業療法士 小西 誠 さん

# 「ボランティア通信」16年の歴史 100号発行

翌年に「ボランティア国際年」を控えた2000年6月15日「ボランティア通信」が創刊されました。

ボランティアセンター活動のこと、福祉に関する情報をできるだけ早くお届けするために隔月の発行。欠刊なく100号に至りました。

6号からは「ボランティアセンター通信」と改名。若草色の紙面で毎回2000部を印刷、関係各所にお届けしています。

これからもみな様のご支援、ご指導のもと次なる200号に向けて勇往してまいります。

これからも、ご愛読のほどよろしくお願ひいたします。(編集者)

→ 創刊号=Vセンターを図で紹介



## 窓明かり



リオオリンピックピック、パラリンピック、当市出身力士 豪栄道の優勝やポケモンGOなどの話題を残して今年も残りわずかになりました。▼ボランティアセンター

体はじめ実にはたくさんの福祉関係者が集い活動の輪を広げました。▼施設などへの、当センター調整活動者数もこの1年で1000人を越える勢いです。▼来る年もまた、出会いと感動多い心豊かな日々でありますように。(智)